

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設して1年しか経っていないので、日頃の散歩や挨拶等で親睦を深め当グループホームの理念を理解し浸透する様、心掛けています。</p>	<p>地域性を考慮しつつ地元の方々が気軽に来られる様、区長・民生委員と検討している。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念の基本方針の姿勢として「目配り・気配り・思いやり」の3原則を柱に置き、職員一同、常に理念を念頭にケアに努めている。</p>	<p>愛とやすらぎを理念におき、愛とは何か、やすらぎとは何かを幅広く探求し個々に思考しながら本来のケアを真剣に取り組んでいる。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>あくまでも主体は利用者であって家族の意向も大切にしているが利用者の要望を顔z区に伝達し協力できる関係を保つ様、努めている。</p>	<p>職員が何時でも笑顔で出迎え、楽しくケアをしていく姿を通して、利用者の方が生活しやすい状態や状況を作り上げている。またそれを細やかに説明をし、理解をはかる。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的な挨拶を含み、常に声掛けを行い親交を深めている。</p>	<p>天気のよい日は必ず希望者を募って近所に散策に出かけ、道中の農作業中の方や同じ散歩中の方と会釈したりお互いに声をかけコミュニケーションをとっている。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域での「夏祭り」や『道祖神』等の自治会主体の行事が極めて少なく、参加者も少ないので現在では困難な状況下にある。</p>	<p>○ 地元区長・民生委員と話し合い参加できる催し等があるか検討中。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元中学校のヤルベンチャーの協力の届出をしたりしているが、まだ開設して1年の為、地元民生委員を窓口にして、交流をどう図るか検討中である。	○	利用者を中心にナニができるかを考え、地域の方々と話し合い取り組める様にしていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めてのため、疑問に思う部分も含め、指導していただき改善できるところは改めて評価を受け入れていきたい。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね、2ヶ月に1回の会議を設け、行事報告を始め、日常生活状況報告その後地元区長・民生委員・家族から意見交換の場も十分に時間を取り、親交を深めつつ有意義なものとなっている。		利用者家族の全員参加を目標とし毎回9名家族宛に通知書を送付し家族の利用者に対する関心が薄くならないよう、心掛けている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービス内容や地域との接し方、個人情報の問題点等、入居から退居に関わる運営・介護について市の担当課に速やかに報告・相談している。		常に市への報告や相談等は細やかに連絡している。サービスケアの方針や向上等、指導を受けより良いサービスの向上に努めている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、実地していない。また、必要に迫られていない。	○	これから学ぶ機会を持ち、その旨の相談を受けた折には学んだことを活用していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が職員に日常的なケアの指導をしている中で、虐待防止の徹底も教育している。		市・県からの講習・講演等を率先して参加出席し、ケアに生かしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規程は基より、重要事項抜粋・個人情報の問題点等、細かく説明し理解・納得を確認した上で、契約を結んでいる。		十分な時間を作り、納得がいく様、利用者・家族等に話し合いの場を設けている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員の名札着用義務化をはかり、利用者が意見・不満等を話しやすい関係を保ち、常に耳を傾けている。		利用者の意見を良く聞き何でも話せる関係を築いていき、外部へは、表せるような体制はできている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一回配布の「いこい通信」で全体的な報告をし、この利用者についてはその都度家族に速やかに連絡・報告をしている。また、家族が来訪した際には、こちらから積極的にその利用者の生活状況報告をしている。		月に一回の発行の通信紙で全体的な連絡・報告を行っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱の設置、管理者はじめ職員の名札着用、相談・苦情等の担当者窓口の管理者氏名の明記を津年い掲示板等に表示してある。		目立つところに目安箱の設置や苦情等の受付担当者氏名の明記を常に掲示し、家族が気兼ねなく話せる雰囲気を作っている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例的に月2～3回の全体会議の際に意見や提案を聞き話し合いをしている。また行事等後には反省会などを設け、不定期ではあるが細かく意見交換の場を設けている。		月2～3回の全体会議を設け意見交換や介護サービスの向上心を養うよう勤め、日々のケアに反映させている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通常業務体制は基より、非常時やイベント等の勤務も柔軟な対応ができている。		24時間、常に職員の確保は可能で、勤務調整も柔軟な対応ができるよう配慮している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職に関しては利用者への影響は全く無く代わる場合もこの職場に適した人材を募り、最小限にダメージを防ぐ努力をしている。		職員の異動時により、利用者へのダメージは最小限に抑える配慮は万全である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県・市主催の研修は率先して受けさせている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員個別でのミーティングの時間を定期的に取り、仕事面や私生活でのストレス等を溜めないよう話し合いの場を持ち聞いてアドバイス等をしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務状態の把握はもちろん、職員の個性を活かしたケアができる様、自信をつけさせる言葉を交わし、向上心を持ち保てる様、配慮に努めている。</p>	<p>運営者が毎日時間のゆるす限り、ホームに顔を出し出勤している。職員をコミュニケーションをとっている。</p>
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族からだけでなく、利用者本人から直接は無しを聞き、受け止め少しでも不安が解消できる様、また新たな生活環境に安心してなじめるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族その話し合いは時間をかけて行っており、不安が解消できるまで、また求めていること等をよく聴き、お互いを理解できるまで良い信頼関係が生まれるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	相談は常に時間をかけて受けており、医療機関への窓口 等、アドバイスや支援に心がけ努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	サービス開始前に家族と何度もミーティングを重ね、その利 用者が安心して入居できるように細心の配慮をしながらサー ビスを提供している。		
	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	単純に身体背うかつ介護をするのではなく、普段馴染んでき た日常生活風景の様に利用者・職員は同じものを見て感じ るにも喜怒哀楽を共有し信頼関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	家族からの相談や家庭事情等、悩みや話を聴き一緒に考え アドバイスを少しでも軽減・解決できる様に話しやすい雰 囲気作りをし、良い関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	入所してから家族と本人の関係が疎遠にならぬ様な配慮そ ざりげなく心がけ良い家族関係が保てる様、支援に努めて いる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	通いなれたと所や友人関係を入所前に聞き把握し、家族と相 談しながら支援に努め少しでも長く継続できるよう心掛け ている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるように努めている	利用者同士がとともよい関係が築けるよう、決して孤立す ることがない様に、常に職員が見守りをし利用者がいた わりの気持ちを持ちながら努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<input type="checkbox"/> 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後も家族が遊びに来られたり、こちらから利用者の移転先へ訪問に出かけたりと行き来ができる関係にある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本院の以降を大切にし、希望などの把握に努め、利用者を中心としたケアができる様、心がけている。		
34	<input type="checkbox"/> これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取り調査を行い、ケアマネージャーや家族からも情報を提供していただき、今までの経過等も含め把握に努めている。		
35	<input type="checkbox"/> 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員も利用者と同じ目線に立って、利用者を理解しその日の体調や心身状態を総合的に把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向、家族の希望と介護現場からの声等、すべての分野関係者から出来る限りの意見やアイデアを持って計画を作成している。		
37	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態を日々記録し見直し等が生じた場合は、期間中であっても必要な関係者と話し合い早急に現状に応じた新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録等で情報を把握し、それについてケアミーティングで意見交換を介護職員としている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	サービス事業以外の医療についての相談等、本人や家族の状況に応じ、その希望に出来るだけ柔軟な姿勢で取り組み支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティアは月に数回、不定期ではあるが協力していただき、民生委員や地元交番等、木に掛けていただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	数社のサービス事業所とは、活用できる話し合いが出来ている。またそれに応じて利用者に支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	活用の仕方がわからず実地していない。	○	検討していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等の希望で本人のかかわつけ医に受信されている。また、必要に応じてその利用者のかかりつけ医とコンタクトや情報交換を行い、適切な医療が受けられるような関係が築き上げている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	平素の検診医が全国的に結う目名認知症で専門医である為、日常的に相談し、アドバイスを受け全面的な協力や治療を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員の中に看護資格者もいる。また検診医院の看護諸君とも日常的に気になる点等があれば、気軽に祖横断したり、医療を活用している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の状態を把握するため、入院先の病院にこまめに足を運び関係職員と情報収集や交換を行っている。また早期に退院後のケアや治療も考え、医療機関と良い協働に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の方針をよく聴き、検診医と相談し、よく話し合い繰り返し介護場で会議を開き利用者に係る人々が同じ方針で来るべき終末期に向けて備えている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	チームとしてどのような支援をしたらよいか、医師や家族等、それぞれの専門分野を活かし、協力し来る終末期ケアにおける支援を検討し準備している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供書を作成し次に移転される居住がスムーズに行く様努め、その後移転先に住まわれてからも電話等でダメージがないかアフターケアに努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等はほかの利用者の名前は記入せず個人情報の保護に努めている。また発言等については、利用者を尊厳することを怠ることのない様、十分な配慮をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の意見表示や自己決定に対し協力し尊重する様、努めて支援している。また意思表示しやすい環境作りに努め、暮らしやすい日常生活が出来るよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その利用者にあつたペースのケアをしている。穏やかで楽しい生活が送れる様、配慮し支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望を取り込み、家族と話し合い訪問理美容を利用するか決めている。訪問に関しても髪型や毛染め等は、本院の注文に応じ利用者やその家族が納得いく様に支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は当番制(調整力は無い)で職員と一緒に調理師決して無理・強要はせず、その利用者の能力に応じた準備や片付けを楽しみながらしていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・タバコ等は、健康面を考え検診医とも相談し支援していない。飲み物・好物等に関しては模擬店「喫茶いこい」たるものを作り職員が利用者個々にオーダーを取り、日常的に楽しんでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	二時間おきに声掛け・誘導を行い、失敗がない様勤め、排泄状況を把握している。また失敗があっても自尊心を傷つけない様、配慮に心がけケアをしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の入浴の曜日は定めてはいるが毎日、声掛け出入浴希望を取り、入浴をしている。また入浴が広いので広々とした空間の中でゆったりした気分で入浴できている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	落ち着いた環境作りや不安のない様努め、眠れない状態のときは、一緒に眠れるまでそばに寄り添い肌のふれあいを大事にしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事当番やテーブル拭き等の軽作業を利用者の生活歴・残存力・気分の状態に応じ楽しみながら役割を果たす充実感が得られる様に努め、レクリエーション等で、作品作りや行事ごとで楽しみや気晴らしができる様にしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	旅行等、外出したときに一定の金額を持ち、利用者各々の望むものに使える様、また買い物楽しさをもてるよう、支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋内外は自由に出入りが出来る環境にしてあり、天気の良い日の散歩も自由に利用者が戸外に出かけられる様にしている。また庭にはベンチ等が数箇所設置してあり、すぐに座れる様に工夫している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族が個別に遊びに外出されること意外、毎月一回を目標とし沼田市へりんご狩り・榛名湖・横川の釜飯等、利用者の体力に負担のならない観光・名所等に出かけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ等は、家族と話し合い日常的に支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	キーパーソンの許可を得て訪問できる体制を作り居室で楽しく談話が出来る様、工夫し配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないというケアだけでなく必要性がないケアも考慮に入れ、利用者にとっての良いケア方法を常に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室にかぎはつけて(設置)おらず、日中の玄関等、状況に応じ鍵をかけないよう努め、事故の内容見守りを強化している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の安全確認は見守りを中心に常に欠かせない様、職員に指導教育し努めている。建物構造上ホール内外からでも利用者の所在確認や把握が出来、プライバシーも守られる環境になっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物になりうるものや迷惑のかかるものは本人に了解を得、家族と連絡を取り合い話し合いながら決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に注意を払い、職員の全体会議等で繰り返し話すことで認識を高めヒアリハットを活用し事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署に協力いただき実際に救急の通報訓練や人工呼吸指導等、学ぶ機会を持ち職員全員が対応できる様自主訓練等を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	区長をはじめとする地元住民の方の協力は得られるようにしており、災害時等の非難の際には速やかに誘導が出来る様な方法・手順を職員に教育している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状況・状態の変化をともに家族へ報告しその都度話し合い説明し理解していただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食事量やバイタルチェック等の状態等に気を配りが付けば速やかに報告し責任者等が状況に応じた対応を促し家族にも連絡報告をしている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のノートを作成し、いつでも職員が確認できるようにしており、薬辞典の設置もしてある。また処方に変化等あったときは、速やかに職員全員に伝達し努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維が多く含む食材や魚・乳製品等を上手に取り入れ工夫した食事作りをし軽度の体操ストレッチを日常的に取り組み、近所の散策等、体を動かさず働きかけをしている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	状態に応じ介助しながら磨き残しがないようチェックし、入れ歯しよの場合には毎晩ポリデントをしようしうがい等食べ物が航空内に無い様、介助し生活保持に努める		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一ヶ月の献立がカロリー計算されており、一週間ごとに献立表を掲示している。また利用者の状態に応じた食事量や水分量を常に把握し対応できる様にしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ等の予防接種は職員には義務化し利用者には積極的に接種する様、家族等に促し日常的には手の消毒・うがい・換気・湿度管理をし、訪問者に対しても手の消毒を促し予防策に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	運営母体が食品会社のため、衛生的なことは飲食店並の管理・チェックを毎日行っている。食材の鮮度についても同様に毎食時の調理にチェックをし新鮮で安全でなおかつ充実した満足できる食生活が出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関等、バリアフリーで広々と間口を取っている。ガラス張りになっており開放感のある明るいホールで車椅子でも楽に出入りができる様、安全で安心して設計し周囲にもベンチ等を置き、工夫をしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室やホール等、自然光が差し込むよう設計しており、防音等・居室はプライベート空間を確保している。四季を感じ取れる様、花木等の風物詩を室内に飾ったり居心地の良い空間作りをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの空間・談話室等ソファやイスの配置を工夫し利用者同士が思い思いに会話し座談等が出来る様工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族・本人と相談しながらなじみのものや好みのもの、インテリア等を設置(搬入)し各居室がその利用者にとって落ちお付のアル居心地の良い空間・場所になっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋に換気扇・エアコンを設置しており、ホールにはエアコンには基より換気窓もついて空気の入替えが手軽に行え、ユカ暖房も設備されており、温・湿度管理をしながら上手にこまめにそれらの器具類を使用し利用者の体に負担がかからない生活が出来ている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールが広いと、障害物を少なくし安全に歩行できる様、手すり等の設置・段差のない床であり利用者が出来るだけ自立して行動できるよう、安全に配慮した設計になっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	転倒・事故等に気をつけ残存機能を生かし自立に向けてのケアを安全面からも配慮しながら混乱等を防ぎ生活している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	100坪の庭を常に開放し利用者が自由に戸外と行き来できるようになっている。また天気の良い日には外でお茶等が飲めるよう、ベンチを常設してあり、森林浴も満喫できるようになっている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の
		②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と
		②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

約100坪の庭や周囲の緑豊かな自然を常時満喫でき、四季を感じることが常に出来る環境にある。なるべく日常的に戸外へ出られるよう心がけ天気の良い日は広い庭で職員と